

医療機関 様

登園開始許可証明書

平素より当園活動にご理解ご協力いただき厚く感謝申し上げます。

当園児が伝染病にかかり貴院で治療を受け伝染性の恐れがなくなったときは下記登園開始許可証明書を発行してくださいませうお願い申し上げます。

この許可書は集団での感染症発症や流行をできるだけ防ぐことはもちろん、子ども達が一日快適に集団の中で生活できるか判断する為のものです。保育所入所児がよくかかる下記の感染症については、感染力がないこと、集団での保育所生活が可能状態となつてからの登園であることを配慮ください。

登園開始許可証明書

笠幡菜の花保育園

○ 医師が記入した意見書が必要な感染症

感染症名			
<input type="checkbox"/> 1. 麻疹(はしか)	<input type="checkbox"/> 2. インフルエンザ	<input type="checkbox"/> 3. 風しん	<input type="checkbox"/> 4. 水痘(水ぼうそう)
<input type="checkbox"/> 5. 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	<input type="checkbox"/> 6. 結核	<input type="checkbox"/> 7. 咽頭結膜熱(プール熱)	
<input type="checkbox"/> 8. 結膜炎(細菌性・ウィルス性・流行性・急性出血性等・アレルギー性)			
<input type="checkbox"/> 9. 百日咳	<input type="checkbox"/> 10. 腸管出血性大腸菌感染症(O157、O26、O111 等)		
<input type="checkbox"/> 11. 髄膜炎菌髄膜炎	<input type="checkbox"/> 12. インフルエンザ菌感染症	<input type="checkbox"/> 13. 肺炎球菌感染症	
<input type="checkbox"/> 14. 溶連菌感染症	<input type="checkbox"/> 15. マイコプラズマ肺炎	<input type="checkbox"/> 16. 手足口病	
<input type="checkbox"/> 17. 伝染性紅斑(リンゴ病)			
<input type="checkbox"/> 18. 胃腸炎・お腹のかぜも含む(ウィルス性・ノロ・ロタ・アデノウィルス等・乳児嘔吐下痢症等)			
<input type="checkbox"/> 19. ヘルパンギーナ	<input type="checkbox"/> 20. RSウイルス感染症	<input type="checkbox"/> 21. 帯状疱疹	
<input type="checkbox"/> 22. 突発性発しん	<input type="checkbox"/> 23. とびひ(伝染性膿痂疹)	<input type="checkbox"/> 24. 単純ヘルペスウイルス感染症	
<input type="checkbox"/> その他 _____			

園児名 _____ は、症状が回復し、集団生活に支障がない状態となつたので

_____ 年 _____ 月 _____ 日より登園可能と判断します。

年 _____ 月 _____ 日

医療機関

医師名

印又はサイン

感染症の登園基準 ※厚生労働省「保育園における感染症ガイドライン」参考

主治医の診断を受けて登園許可書を記入してもらい、登園時に持参してください。

	感染症名	感染しやすい期間	登園のめやす
1	麻疹（はしか）	発症1日前から発しん出現後の4日後まで	解熱後3日を経過してから
2	インフルエンザ	症状が有る期間（発症前24時間から発病後3日程度までが最も感染力が強い）	症状が始まった日から5日以内に症状が無くなった場合は、症状が始まった翌日から5日目まで又は解熱した後、3日を経過するまで
3	風しん	発しん出現の前7日から後7日間くらい	発しんが消失してから
4	水痘（水ぼうそう）	発しん出現1～2日前から痂皮形成まで	すべての発しんが痂皮化してから
5	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	発症3日前から耳下腺腫脹後4日	耳下腺の腫脹が消失してから
6	結核		感染のおそれがなくなってから
7	咽頭結膜熱（プール熱）	発熱、充血等症状が出現した数日間	主な症状が消え2日経過してから
8	結膜炎（細菌性・ウイルス性・流行性・急性出血性・アレルギー性等）	充血、目やに等症状が出現した数日間	感染力が非常に強いため結膜炎の症状が消失してから
9	百日咳	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで	特有の咳が消失し、全身状態が良好であること（抗菌薬を決められた期間服用する。5日間服用後は医師の指示に従う）
10	腸管出血性大腸菌感染症（O157、O26、O111等）		症状が治まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続2回の検便によって、いずれも菌陰性が確認されたもの
11	髄膜炎菌髄膜炎	主に4日以内（1～10日間）	医師により感染の恐れがないと認めた時
12	インフルエンザ菌感染症	主に2～3週間（1～4週間）	発熱、咳などの症状が安定し、全身状態の良い者は登園可能
13	肺炎球菌感染症		
14	溶連菌感染症	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間	抗菌薬内服後24～48時間経過していること
15	マイコプラズマ肺炎	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間	発熱や激しい咳が治まっていること
16	手足口病	手足や口腔内に水疱・潰瘍いようが発祥した数日間	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
17	伝染性紅斑（リンゴ病）	発しん出現前の1週間	全身状態が良いこと
18	胃腸炎・お腹のかぜ※1（ウイルス性・ノロ、ロタ、アデノウイルス等・乳児嘔吐下痢症等）	症状のある間と、症状消失後1週間（量は減少していくが数週間ウイルスを排泄しているので注意が必要）	感染力が強いため、嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれ、他人への感染のおそれがないと医師が認めた時
19	ヘルパンギーナ	急性期の数日間（便の中に1か月程度ウイルスを排泄しているので注意が必要）	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
20	RSウイルス感染症	呼吸器症状のある間	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと
21	帯状疱疹	水疱を形成している間	すべての発しんが痂皮化してから
22	突発性発しん	生後6ヵ月～1才6ヵ月の乳児にかかりやすく、38～39℃発熱後発疹がでる	解熱し機嫌が良く全身状態が良いこと
23	とびひ（伝染性膿痂疹）	細菌が感染して水泡が膿をもったような病変ができます。それをかきむしることによって体のあちこちに飛び火していく。悪化してきたら内服薬のほうが早くよくなります。	他人への感染のおそれがないと医師が認めた時 患部ガーゼでおおって登園。おおいきれない又は広がっている場合は、登園不可
24	単純ヘルペスウイルス感染症	よだれ等からうつる 口内炎が治るまで1週間くらい	症状が改善し、元気があれば登園可能 普段の食事がとれること

*登園許可書を持参されても時としてお子さんの状態を見て、登園のめやすを満たしていない、症状がおさまっていない場合、集団生活が難しいと判断した場合はお預かりできません。

※1・・・お腹の風邪も胃腸炎とみなしますので登園許可書を持参のうえ、登園してください。